

三沢南崎遺跡2

小郡市文化財調査報告書

第241集

2009

小郡市教育委員会

三沢南崎遺跡 2

- 小郡市三沢字南崎所在遺跡の調査報告 -

小郡市文化財調査報告書第241集

2009

小郡市教育委員会

三沢南崎遺跡 2

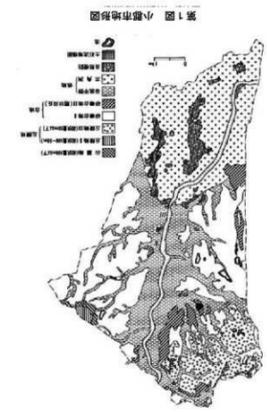
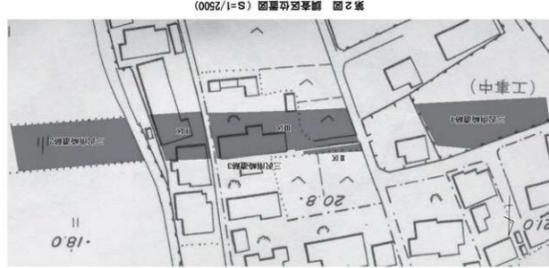
小都市三沢南崎所在遺跡の調査報告

本文目次

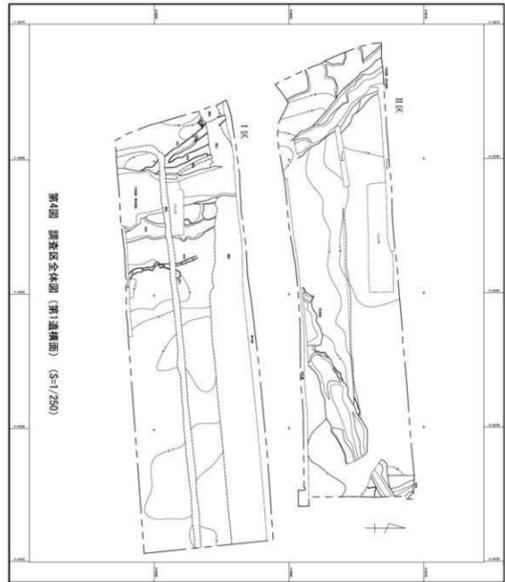
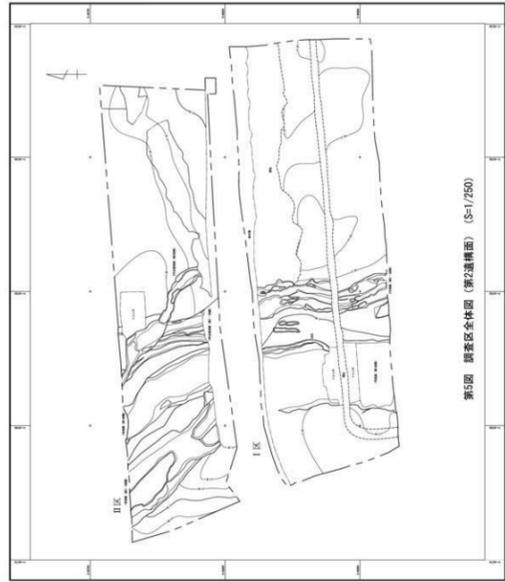
序 例言 凡例	
I. 調査の経緯と経過	1
(1) 調査の経緯	
(2) 調査の組織	
(3) 調査の経過	
II. 位置と環境	3
(1) 地理的環境	
(2) 歴史的環境	
III. 遺構と遺物	5
(1) 調査の概要	
(2) 第1遺構面の遺構と遺物	
(3) 第2遺構面の遺構と遺物	
(4) 1号流路	
(5) その他の出土遺物	
IV. 三沢南崎遺跡2における自然科学分析	35
(1) 分析資料の採取について	
(2) プラント・オパール分析	
(3) 花粉分析	
V. 調査成果のまとめと検討	45
抄録 奥付	

挿図目次

第1図 小都市地形図	2
第2図 調査区位置図 (S=1/2500)	2
第3図 周辺遺跡分布図 (S=1/50000)	4
第4図 調査区全体図(第1遺構面)(S=1/250)	6
第5図 調査区全体図(第2遺構面)(S=1/250)	7
第6図 I区唯南壁トレンチ土層断面 (S=1/40)	8
第7図 I区調査区南壁・II区調査区北壁土層断面 (S=1/40)	9・10
第8図 I区1号流路(第3段階)木製品出土状況① (S=1/30)	23
第9図 I区1号流路(第3段階)木製品出土状況② (S=1/30)	24
第10図 I区1号流路(第3段階)出土木製品① (S=1/4)	25
第11図 I区1号流路(第3段階)出土木製品② (S=1/4)	26
第12図 I区1号流路(第3段階)出土木製品③ (S=1/4)	27
第13図 I区1号流路(第3段階)出土木製品④ (S=1/4)	28
第14図 I区1号流路(第3段階)出土木製品⑤ (S=1/4)	29
第15図 I区1号流路(第3段階)出土木製品⑥ (S=1/4)	30
第16図 I区1号流路(第3段階)出土木製品⑦ (S=1/4)	31
第17図 I区出土土器 (S=1/4)・石器 (S=1/2)	32
第18図 II区出土土器 (S=1/4)	33
第19図 II区出土石器・土製品 (S=1/2, 9のみ1/4)	34
第20図 三沢南崎遺跡2のプラント・オパール分析結果	38
第21図 三沢南崎遺跡2における花粉ダイアグラム	42
第22図 流路変遷案 (S=1/600)	46
第23図 調査区周辺の詳細遺跡分布 (S=1/600)	48
表1 三沢南崎遺跡2のプラント・オパール分析結果	37
表2 三沢南崎遺跡2における花粉分析結果	41



のためウツリ採取 25日1号自然流路の一部にウツリノチを掘削、第1水田耕作と認定される。面的に広がる黒土との関連性を確認するも直接の関係はなし、1号自然流路(新経路)掘削開始 27日1号自然流路(新経路)の完了 28日・平成20年1月6日正月休み 8日第1水田耕作土を面的に検出、測図・写真撮影により記録 7日2号の埋土であり水田耕作ではないと判断 7日2号自然流路(基盤層)検出完了 8日1区2回目の全写真撮影、2回目の調査区全体図作成 13-15日水田耕作の測図・写真撮影、取得し作業実施 14日I区埋め戻し作業開始、II区築土除去開始(-18日) 19日II区遺構検出開始、1・2・3号自然流路建設、1号自然流路(新経路)掘削開始 20日調査区内の順位確認 21日ウツリノチ掘削完了、水田の可能性が乏しいと判断、第1水田耕作(新・旧)との関連はないと判断、第1水田耕作土検出状況を写真撮影 28日II区1回目の全写真撮影及び調査区全体図作成 3月6日1号自然流路(古経路)掘削開始 10日2号自然流路掘削開始、流れを変えて2時期に築くと判断 12日II区2回目の全写真撮影、機材撤収 13日2回目掘削が完了、小都市役所都市建設部道路建設課の下、現場引き渡しを行ない、調査完了



II. 位置と環境

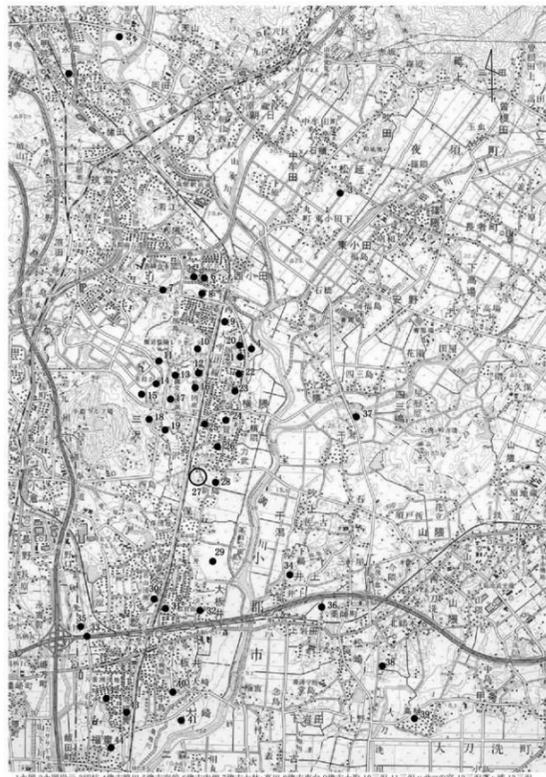
(1) 地理的環境

小都市域は北から南へ流れる宝満川によって二分され、右岸には北西部に背振山系から派生する丘陵(通称・三国丘陵)があり、これが南へ行くに従い緩やかに下って平坦な台地へ移行し、市域南端で筑後平野へ連なっている。左岸は北東に所在する花立山(城山)を頂点として南へと下り、同じく筑後平野に至る台地が延びている。本書で報告する三沢南崎遺跡は、右岸の舌状に張り出す低丘陵の裾部に集落域が位置している。

(2) 歴史的環境

小都市三沢は、中九州ニュータウン開発計画に伴い、長期かつ大規模な発掘調査が実施された地域であり、特に弥生時代前期から古墳時代前期にかけての集落・生産域・墓域それぞれの全体像、集落間や集落対生産域、集落対墓域の相互関係を広域的な視野で見通すことが可能な、稀有な例である。ここでは本遺跡と同時期の遺跡について概観し、歴史的環境の概要を示す。

弥生時代前期は、湧水の伴う谷部の湿地帯と乾燥した丘陵部が接する位置に集落が発達される。三国丘陵においても、複雑に入り組んだ舌状段丘と小規模な谷部が面する位置に集落が集中する傾向がある。現・美鈴が丘、希みが丘には、前期から中期にかけての環濠を伴う集落である三沢北中尾遺跡(16)や一ノ口遺跡(14)、北松尾口遺跡(15)など、同時期の遺跡は枚挙にいとまがない。中でも一ノ口遺跡(14)は、広大な丘陵という地形を利用した大規模な集落であり、外周する櫓列によって防御された区画の中に、100軒を超える竪穴住居群が検出されている。弥生時代前期の生産域としては、木杭列を伴う谷水田を検出した三沢公家降遺跡(13)や水田畦畔が確認されている力武内畑遺跡(28)がある。三沢公家降遺跡は試掘調査に伴うプラント・オパール分析によって水田遺構の存在が推定され、本調査へ至った。畦畔・水路等は未検出であるが、溜め井状の役割を果たしたと想定される竪穴とそこから延びる蛇行する溝が確認されており、谷部の冷えた湧水を一旦この溜め井に入れ、温度調整をしたのち水田へ流し込む、という原始的な水利用の方法が提案されている。水田は小区画の階段状を呈していたと考えられ、木杭列は畦畔と溝を維持するための施設と思われる。力武内畑遺跡では、松葉型住居を伴う集落域と共に、水田と水利施設である井堰が併せて検出された。井堰は当時の自然流路の水を水田へ引き込むための分水と調整の役割を担っており、複数回の補修の実施が確認されている。高度な灌漑技術が弥生時代前期の早い段階で内陸部まで伝播していたことが証明されただけでなく、集落と水田経営の双方が深く関連した資料として特筆に値する。また水田ではないが、三沢僅ヶ浦遺跡(12)では弥生時代前期の畑状遺構が確認されている。30×20mの面積に畝と溝が構築されており、近接して居住域も見つかっている。この遺跡の調査成果からは、近接する他集落との位置関係から、当時の農耕集落の拡大してゆく状況や生産の主体、それに適した周辺環境の維持など、生産に関する様々な問題などが論じられている。これらからやや時代は新しいが、津古大津遺跡(7)でも弥生時代中期前半を始めとする、3時期の水田遺構が確認されている。出土遺物から推定される水田の上層は、8世紀・6世紀・弥生時代中期前半となり、最古の水田は畦畔で小規模に区画され、畦畔の補強のため次下防止の板材を伴う杭列が構築されている様子が見られる。後期については、三沢運輸遺跡で大小の水路を伴う水田遺構が確認されており、その上流に位置する三沢上棚田遺跡(19)では、これらの水田に水を供給する用途で構築されたと考えられる溝状遺構が検出されている。前述の力武内畑遺跡は本遺跡から南東に近接する位置にあり、「南北に長い舌状段丘に挟まれた谷部」という地理的条件は共通している。さらに、本遺跡の西にある段丘上には、同時期の遺構こそ未確認であるが、弥生時代中期から古墳時代初期にかけての密度の高い集落が存在しており(三沢南崎遺跡3、平成20年度報告書刊行)、この集落を支えた生産域の存在を想定しなければならないだろう。



第3図 周辺遺跡分布図 (S=1/50000)

III. 遺構と遺物

(1) 調査の概要

<水田想定部分の調査>

本遺跡の調査は、表土掘削及び遺構の手掘り掘削によって排出する廃土置場を確保するため、道路改良工事対象区を南北に分断し、南部をⅠ区、北部をⅡ区として実施した。調査の契機となった事前の試掘調査によって、2面の水田耕作面が存在する可能性が示唆されており、各水田耕作面の標高は比較的近接した数値を示していたため、まず重機によって既存田畑耕作土・造成土を除去し、第1遺構面を調査、その後手掘り掘削で第2遺構面を検出するという方法を採用した。この方法はⅠ・Ⅱ区ともに共通する。

試掘調査によって確認された層序は、下記のとおりである。

- 第1層：黒灰色粘土
- 第2層：灰～青灰色粘土
- 第3層：黒色粘土
- 第4層：青灰～紫灰色粘土（基盤層）

まず第1層（新段階水田耕作土）～第2層（新段階水田耕作面）、第3層（古段階水田耕作土）～第4層（古段階水田耕作面）と想定して調査を進めることとした。各層については、次の順序で調査を実施することとした。

- ①水田耕作土を全面検出
- ②精査によって水田畦畔・水路の有無の確認
- ③耕作土の全面を段階的に掘削し、その都度精査を行なって水田畦畔・水路の有無を確認
- ④耕作土を完全に掘削して耕作面を検出

出土遺物は各層の名称で取り上げ、遺構面の測図は水田耕作土検出状況及び水田耕作面の双方で行なうこととした。

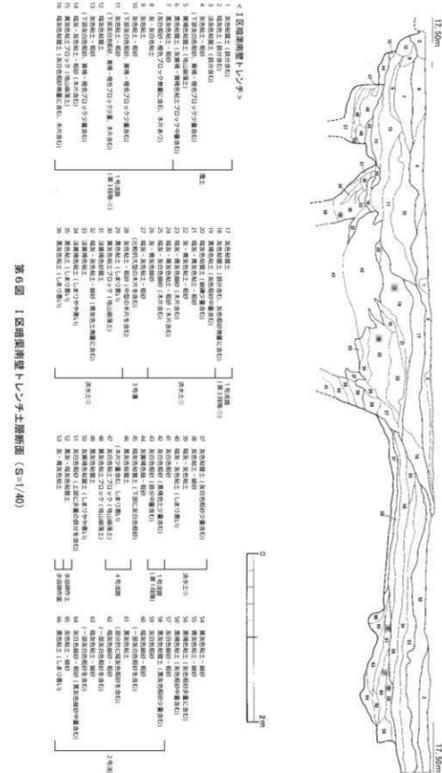
<流路部分の調査>

本遺跡内では、重機による表土掘削を実施した段階で、調査区全域を短断する流路を検出している。この流路は検出段階から水田遺構との関連が想定された。そのため流路の掘削に際しては、機能していた時期の変遷を段階ごとに把握し、また各時期において水田想定面所との関連を層位的に証明することが必要とされた。

そこで、段階を追った掘削が可能となるよう、事前に流路の一部にトレンチを掘削し、流路の変遷を層位的に確認することとした。その上で遺構面の精査を行なって掘削範囲を検出し、流路埋土の掘削を実施している。但し、流路内は遺構の性質上激しい湧水が想定された。また調査区の基盤層下部は砂質土を基本とするため、掘削が進行するに当たって壁面崩落の可能性も考えられた。よって、埋土掘削は作業が極めて困難となるが、あるいは危険を伴うと判断した時点で、完掘にいたってはおらずとも中断することとした。

出土遺物は、事前に掘削したトレンチで確認した層位から出土したものは層位名で、異なる埋土から出土したものは流路の段階を示す番号と出土位置を組み合わせた名称で取り上げることとした。測図については、流路の全てで段階について行なうのが望ましいが、今回は第1・2遺構面と最も関連する段階での状況を計測することとした。この方法はⅠ・Ⅱ区ともに共通する。

以下、遺構面ごとに調査経過と検出遺構・出土遺物について報告する。但し、1号流路に関しては各遺構面との関連を踏まえて報告が必要があるため、別途項目を設けた。



第6図 Ⅰ区調査経路トレンチ土層断面図 (S=1/400)

I. 調査の経緯と経過

I.1 調査の経緯

本遺跡の調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地三沢南崎遺跡内（小都市三沢南崎2881-2・2894他）が「都市計画道路本郷山山線」街路緊急地方道路整備事業の対象となり、平成18年6月5日付で福岡県久米土木事務所より埋蔵文化財の有無に関する照会（事前審査番号06032）が提出されたことに基づき、これを受けて、小都市教育委員会文化財課と同年度6月12日に対象地で試掘調査を行った結果、水田遺構の存在を伺わせる土壌堆積が認められたことから、対象地の一部について調査に先立つた調査が必要である旨の回答を行った。その後、福岡県久米土木事務所及び小都市都市建設部道路建設課との協議を行なった結果、小都市教育委員会が発掘調査の委託を受け、平成19年度に調査報告を付するこ

本調査に関わる組織は以下の通りである。

<平成19年度>

所長	橋川 良郎	教育長	清武 輝
副所長（技術）	吉岡 慶介	道路建設課長	佐藤 吉生
副所長（事務）	溝口 正信	道路3係 係長	丸山 義勝
副所長	花島 淳二	係長	重松 正章
副所長	津田 清隆	係長	重松 正章
副所長	松尾 真司	主任技師	松尾 真司

【小都市教育委員会文化財課】

主任技師 松尾 真司
技師 上田 憲
副所長 津田 清隆
副所長 花島 淳二
副所長 津田 清隆
副所長 松尾 真司

<平成20年度>

所長	高木 良郎	教育長	清武 輝
副所長（技術）	吉岡 慶介	道路建設課長	佐藤 吉生
副所長（事務）	溝口 正信	道路3係 係長	丸山 義勝
副所長	花島 淳二	係長	重松 正章
副所長	津田 清隆	係長	重松 正章
副所長	松尾 真司	主任技師	松尾 真司

【小都市都市建設部】

主任技師 松尾 真司
技師 上田 憲
副所長 津田 清隆
副所長 花島 淳二
副所長 津田 清隆
副所長 松尾 真司

(3) 調査の経過

試掘調査は平成19年12月13日から平成20年3月19日にかけて実施した。調査区は表土処理の関係上、南北に2分割し、南半分をⅠ区、北半分をⅡ区として行っている。試掘調査の結果から、調査区内には2面の水田遺構が存在する可能性が示唆されており、重機によって水田耕作土直上まで表土除去を行い、その後トレンチ掘削を継続して調査経路を設けた。この方法はⅠ・Ⅱ区ともに共通する。

平成19年12月13日重機によるⅠ区表土除去開始（～18日） 17日人力による遺構検出開始。自然流路1号遺構（2時期）、調査区内の層位確認のためトレンチ掘削を実施。以後位置確認のため臨時土層断面図の作成・写真撮影を実施 18日トレンチ掘削を継続 21日トレンチ掘削・オパール及び花粉分析

目次

図版1	①三沢南崎遺跡2 Ⅱ区第1遺構面全景（写真上方が北）
	②三沢南崎遺跡2 Ⅰ区第1遺構面全景（写真上方が北）
図版2	①三沢南崎遺跡2 Ⅱ区第2遺構面全景（写真上方が北）
	②三沢南崎遺跡2 Ⅰ区第2遺構面全景（写真上方が北）
図版3	①調査区上空から三國丘陵を臨む
	②調査区上空から三沢南崎遺跡3（奥落部）を臨む
図版4	①Ⅰ区1・2号溝状遺構 完掘状況（北から）
	②Ⅰ区暗渠南壁面 土層断面（南西から）
	③Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（1）（北西から）
	④Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（2）（北西から）
	⑤Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（3）（北東から）
	⑥Ⅰ区1号流路（第3段階）土層出土状況（南東から）
	⑦Ⅰ区1号流路（第3・4段階）完掘状況（北東から）
図版5	①Ⅰ区1号溝状遺構 完掘状況（北から）
	②Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（1）（北東から）
	③Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（2）（北西から）
	④Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（3）（西から）
	⑤Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品断面状況（1）（西から）
	⑥Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品断面状況（2）（西から）
	⑦Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品断面状況（3）（北から）
	⑧Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品断面状況（4）（西から）
図版6	①Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品断面状況（5）（北西から）
	②Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（4）（北から）
	③Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（5）（北西から）
	④Ⅰ区1号流路（第3段階）木製品出土状況（6）（北から）
	⑤Ⅰ区南壁面 土層断面（北東から）
	⑥Ⅰ区2号流路 南壁土層断面（北から）
	⑦Ⅰ区2号流路 完掘状況（北西から）
	⑧Ⅰ区5号溝状遺構 完掘状況（北から）
図版7	①Ⅰ区調査経路
	②Ⅰ区1号流路（第4段階）完掘状況（南から）
	③Ⅰ区1号流路（第3段階）完掘状況（南東から）
	④Ⅰ区1号流路（第2段階）完掘状況（南から）
	⑤Ⅰ区1号流路（第1段階）土層断面（南から）
	⑥Ⅰ区1号流路（第1段階）完掘状況（南から）
	⑦Ⅰ区2号流路（第1・2・3段階）土層断面（南から）
	⑧Ⅰ区2号流路（第1・2・3段階）完掘状況（南東から）
	⑨Ⅰ区2号流路（第4段階）完掘状況（北から）
図版8	①Ⅰ区6号溝状遺構 完掘状況（北西から）
	②Ⅰ区3号流路 完掘状況（南西から）
	③Ⅰ区3号流路 湧水状況（南西から）
	④Ⅰ区3号流路 木杭検出状況（南西から）
図版9	①出土土器（1）
	②出土土器（2）
	③出土土器（1）
	④出土土器（2）
	⑤出土土器品・玉類
図版10	出土木製品（1）
図版11	出土木製品（2）
図版12	出土木製品（3）
図版13	出土木製品（4）
図版14	①三沢南崎遺跡2 プラント・オパール
	②三沢南崎遺跡2 花粉写真

序

九州のほぼ中央に位置する小都市は、自然豊かな田園都市として近年めざましい発展を遂げてきました。しかし、市内の各地には現在でも田畑が広がり、春に秋に実りの穂を垂れる姿が見られます。農業は今なお市の基幹産業の一翼を担い、私たちの食卓を彩ってくれています。

今回ここに報告いたします三沢南崎遺跡の調査は、この田園風景の中で行なわれ、いしへの農業に関する貴重な資料が多数発見されました。過去も現在も、変わることなく私たちの生活と生命を支える「農業」という産業が、長い歴史の過程でどのように変化し、発展していったのか。それを知ること、食の安全が大きく提らている現代社会において、未来の私たちの生活と生命を守ることにつながってゆくのではないのでしょうか。

最後になりましたが、調査にあたりましては、地元三沢区のみならず、福岡県久米土木事務所にも多大なご協力をいただきました。記して感謝申し上げます次第です。

平成21年3月13日

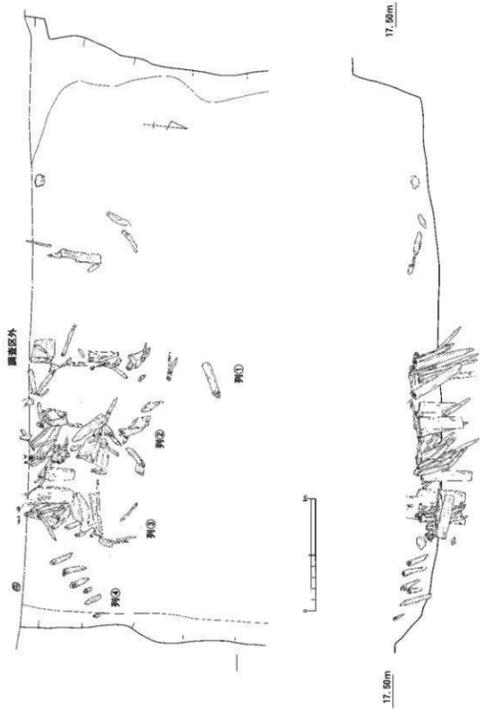
小都市教育委員会
委員長 清武 輝

例言

- 本書は小都市三沢南崎に所在する埋蔵文化財包蔵地 三沢南崎遺跡内に計画された「都市計画道路本郷山山線 街路緊急地方道路整備事業」に伴う発掘調査報告書である。本調査は福岡県久米土木事務所から委託を受け、小都市教育委員会文化財課が実施した。
【調査参加者】（敬称略、五十音順）
岩原 春代 小野美代子 久家 富子 桑原美恵子 榊 文子 佐々木フサエ 執行 弘子 邑川リツ子 中原佐代子 野田美根子 野元エミ子 原野 野子 平川 晃敏 藤田ツヤ子 松本スマ子 柳 勝敏（以上小都市在住）
- 本書に掲載した土層及び遺物出土状況図面は、調査担当者が作成した。製図は馬田妙子・熊本啓子が行った。
- 本書に掲載した個別遺構写真は調査担当者が撮影し、調査区全景写真撮影は有限会社空中写真企画に委託した。
- 遺物の洗浄・復元には斎藤知恵子・角野朋子・佐々木智子・田中悠美子・田鍋桂子・百嶋八千代の協力を得た。遺物実測・製図は調査担当者と馬田・熊本・榊本・久住愛子・吉田あや子が行った。
- 遺物写真撮影は有限会社文化財写真工房に委託した。
- 調査区土壌サンプルのプラント・オパール及び花粉分析は、株式会社古環境研究所に委託した。
- 本書の執筆・編集は調査担当者が行った。
- 本調査に関する出土遺物・図面・写真・カラースライド等については、全て小都市埋蔵文化財調査センターにて保管している。広く活用されることを希望する。

凡例

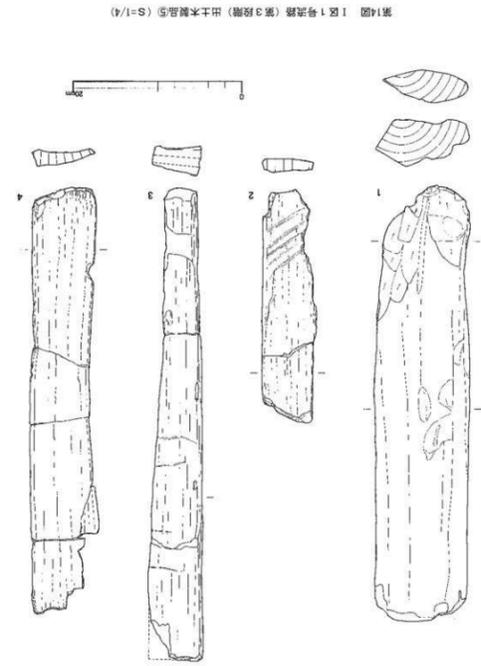
- 本書で用いた北は座標北を基準とし、図上の座標は世界測地系座標に拠っている。
- 本書で用いた標高は東京湾平均海面（T.P.）を基準としている。



第9図 1区1号流路(第3段階) 木製品出土状況 (S=1/20)

幅12.7cm、残存長38.3cm、厚3.2cm、断面は三角形を呈する。上部は大きく破損し、下部は打ち込みによる変形が認められる。3は列③を構成する打ち込みの矢板。幅10.5cm、残存長37.4cm、厚2.2cm、4面を加工しており、先端には打ち込みによる破損が認められる。下部に斜め方向のクズリ状の痕が見られるが、使用に伴うものか。

第16図は列③の南側に位置し、一部が調査区外へと延長する。流路の底面に点々と頂部が認められる程度の検出状況であったため、のちに第2段階の流路掘削と平行して遺物出土状況の記録と遺物取り上げを実施した。東寄りを中心に、南北2.0×東西3.5mの範囲で木杭と矢板の打ち込まれた状況を確認している。流路の平面図は、第3段階の埋土を掘削し、それと同時に第3-2段階間に存在する洪水堆積土も除去したのちに測図しており、第3段階の遺構底面から20cm掘り下げた状況を示している。ここで報告する杭列については、杭の頂部が並ぶ部分で打ち込み面となり、それより下方が打ち込んだ深さとなる。

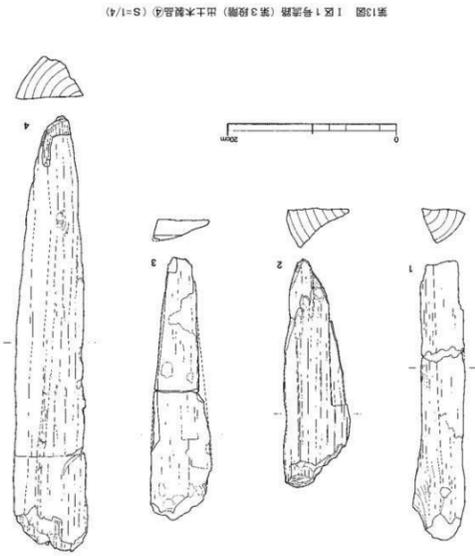


第14図 1区1号流路(第3段階) 出土木製品⑤ (S=1/4)

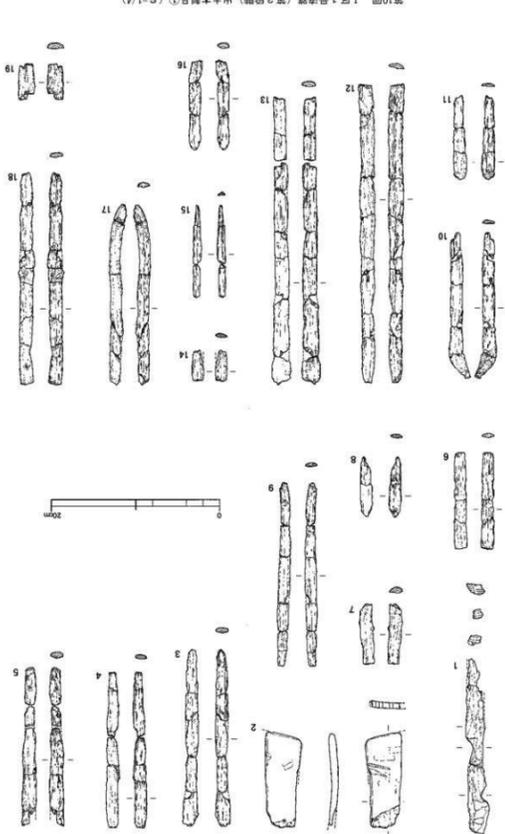
第14図1は列①中央に位置する「みかん割」の打ち込み杭。幅11.0cm、残存長52.0cm、厚5.5cm、外面には1面のみクズリによる平坦面が認められる。先端は外側からクズリを入れて厚みを減らしており、打ち込みによる破損が見られる。2は列①-②間の北側に位置する打ち込みの矢板。幅6.4cm、残存長27.8cm、厚1.7cm、下部は取り上げ時に破損しており、詳細は不明である。頂部は原形を認め、打ち込み痕跡と思われる破損が見られる。3は列①を構成する打ち込みの矢板。幅6.1cm、残存長56.3cm、厚3.0cm、4面を加工している。先端は欠損しているため詳細は不明。頂部に打ち込みによる破損が見られる。3は列①を構成する打ち込みの矢板。幅6.4cm、残存長37.4cm、厚2.2cm、4面を加工しており、先端には打ち込みによる破損が認められる。下部に斜め方向のクズリ状の痕が見られるが、使用に伴うものか。

第15図は列①-②間に北へ面を向けて打ち込まれている矢板。幅12.0cm、残存長53.9cm、厚4.2cm、断面は三角形を呈する。上部は大きく破損し、下部は打ち込みによる変形が認められる。3は列③を構成する打ち込みの矢板。幅10.5cm、残存長37.4cm、厚2.2cm、4面を加工しており、先端には打ち込みによる破損が認められる。下部に斜め方向のクズリ状の痕が見られるが、使用に伴うものか。

第16図は列③の南側に位置し、一部が調査区外へと延長する。流路の底面に点々と頂部が認められる程度の検出状況であったため、のちに第2段階の流路掘削と平行して遺物出土状況の記録と遺物取り上げを実施した。東寄りを中心に、南北2.0×東西3.5mの範囲で木杭と矢板の打ち込まれた状況を確認している。流路の平面図は、第3段階の埋土を掘削し、それと同時に第3-2段階間に存在する洪水堆積土も除去したのちに測図しており、第3段階の遺構底面から20cm掘り下げた状況を示している。ここで報告する杭列については、杭の頂部が並ぶ部分で打ち込み面となり、それより下方が打ち込んだ深さとなる。

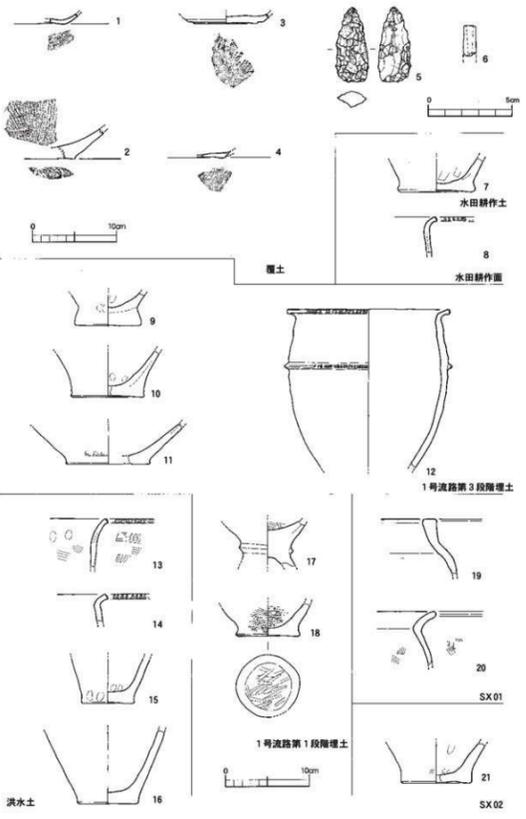


第13図 1区1号流路(第3段階) 出土木製品④ (S=1/4)

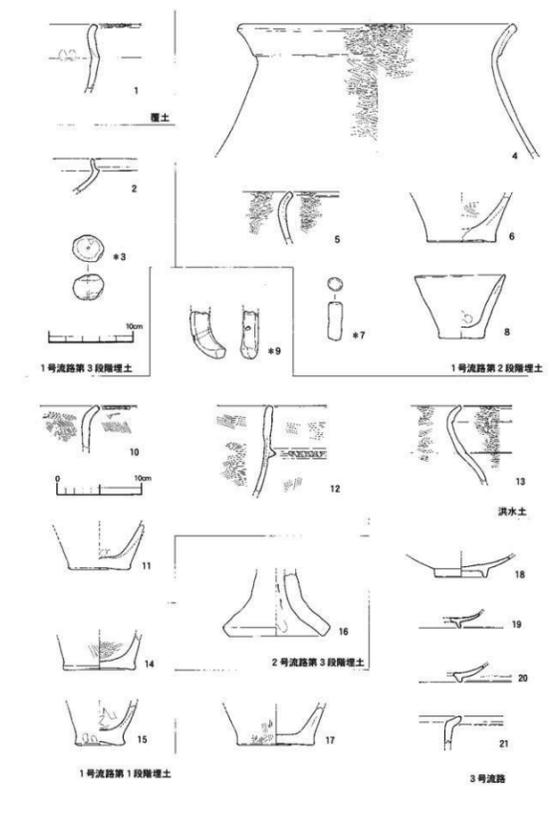


第10図 1区1号流路(第3段階) 出土木製品① (S=1/4)

土から少量の土器・石器類が出土しているが、いずれも激しいローリングを受けている。第18図4・5は壺の口縁-体部。口縁部は折り返して成形し、内外面ともココミガキ調整を施す。胎土は精良で、色は良好。6は壺の底部。外面調整は摩滅のため不明だが、内面は指ナデ。胎土には砂粒を多く含み、にぶい黄褐色。焼成は良好。弥生時代前期後葉の所産。8は鉢。外面は器壁剥離のため調整不明。内面は工具ナデを施す。底部に黒斑が認められる。胎土には砂粒を含み、灰白色で焼成はやや軟質である。前期末から中期初頭の所産。7は用途不明の土製品。淡黄褐色で胎土は精良、焼成はやや軟質である。上下部に平坦面を持つ両型で、土製管玉の未完成品とも考えられる。第19図9は砂色の磁石。破損が激しく2面の使用面を確認している。



第17図 1区出土土器 (S=1/4)・石器 (S=1/2)



第18図 Ⅱ区出土土器 (S=1/4)

出土遺物 (第18・19図/図版8・9)

埋土から少量の土器・石器類が出土しているが、いずれも激しいローリングを受けている。第18図4・5は壺の口縁-体部。口縁部は折り返して成形し、内外面ともココミガキ調整を施す。胎土は精良で、色は良好。6は壺の底部。外面調整は摩滅のため不明だが、内面は指ナデ。胎土には砂粒を多く含み、にぶい黄褐色。焼成は良好。弥生時代前期後葉の所産。8は鉢。外面は器壁剥離のため調整不明。内面は工具ナデを施す。底部に黒斑が認められる。胎土には砂粒を含み、灰白色で焼成はやや軟質である。前期末から中期初頭の所産。7は用途不明の土製品。淡黄褐色で胎土は精良、焼成はやや軟質である。上下部に平坦面を持つ両型で、土製管玉の未完成品とも考えられる。第19図9は砂色の磁石。破損が激しく2面の使用面を確認している。

遺物の時期から、この段階の流路は早くとも弥生時代前期末には埋没したと想定される。

第1段階の流路

第1段階の流路は東へ湾曲しながら、南から北へ流れる。検出面の幅は2.1m前後で、断面は台形を呈するとされる。東西両岸とも、黄褐色砂質土基盤層となる。埋土は最上層の灰白色粗砂のみを確認している。Ⅱ区においては、遺構底面からの湧水が非常に激しく、掘削作業中に埋土である灰白色粗砂と基盤層下の黄灰色粗砂の判別を行なうことが極めて困難であったことから、最上層のみの検出に留まっている。Ⅰ区で見られた黒色粘土は認められず、この段階以前の流路の存在を示す土層も確認できていない。

出土遺物 (第18図)

埋土から極微量の遺物が出土している。14・15は壺の底部、14は内外面にミガキ状の痕跡が見られる。にぶい橙黄色で焼成は良好。胎土には砂粒を含み、15は内面工具ナデ、外面調整は摩滅により不明。胎土には砂粒を含み、にぶい黄褐色。焼成は良好。弥生時代前期前葉の所産。

出土遺物から、第1段階の流路は弥生時代前期前葉に埋没したと考えられる。

<木材の検出状況> (第8・9図/図版4・5・6)

Ⅰ区1号流路の第3段階の北東岸及び南端底面から、まとまった量の木材が出土している。多くは人為的な加工痕が認められない自然木であったが、中には木製品と判断出来るものも含まれていた。遺物の取捨選択は現地での取り上げ作業時に行ない、自然木と判断したものは現地処分としている。2面での検出場所から計88点を持ち帰っているが、大半は木杭で同一の形状を示すものが多いことから、紙幅の都合上残存状況の良好なもののみを測図、掲載している。

1号流路北東の出土状況 (第8図/図版4)

1号流路東岸に位置し、3号溝埋土上面から1号流路東岸テラス部分にかけての2.5m四方の範囲に分布している。第3段階①の埋土内から出土しているが、最も東側の杭については3号溝に伴う可能性もある。出土地点は流路が直行する箇所であり、遺物の出土状況も流れと直接関連する様子ではない。出土範囲を遺物のまとまりに準じて大まかに東・中央・西の3ブロックに分けて詳細を記す。東ブロックは南北方向に広がりを持ち、全て加工痕跡の認められない自然木であった。検出レベルは均一で、この段階での遺構面(いわゆる地山)に貼り付くような状況となっている。並びは北東-南西方向で、流路の進行方向とは一致しない。

中央ブロックは南北方向に並列する細木の組み合わせと瘤状の自然木からなる。細木はいずれも径3cm程度の枝を半分に割ったもので、全て割れ面を上にして平行に並んで出土している。高さは一定でやや遺構面から浮いた状態である。元々は80cm程度のものが8列もしくはそれ以上並んでいたと思われるが、埋土掘削時に中央と南寄りの部分を破壊してしまっている。流路の方向とは同じ向きとなって

1号流路南端の出土状況 (第9図/図版5・6)

調査区南端に位置し、一部は調査区外へと延長している。流路の底面に点々と頂部が認められる程度の検出状況であったため、のちに第2段階の流路掘削と平行して遺物出土状況の記録と遺物取り上げを実施した。東寄りを中心に、南北2.0×東西3.5mの範囲で木杭と矢板の打ち込まれた状況を確認している。流路の平面図は、第3段階の埋土を掘削し、それと同時に第3-2段階間に存在する洪水堆積土も除去したのちに測図しており、第3段階の遺構底面から20cm掘り下げた状況を示している。ここで報告する杭列については、杭の頂部が並ぶ部分で打ち込み面となり、それより下方が打ち込んだ深さとなる。

打ち込みはいずれも南北方向の列となっており、4列を構成している。ここでは便宜上西から順に列



②三沢南崎遺跡 Ⅱ区第1号溝跡 Ⅱ区第1号溝跡全貌 (写真上方向北)

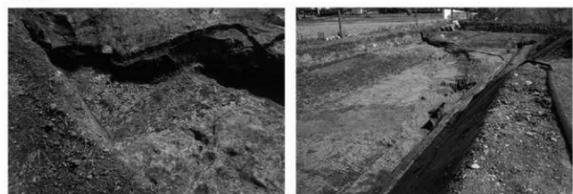


①三沢南崎遺跡 Ⅱ区第1号溝跡 Ⅱ区第1号溝跡全貌 (写真上方向北)

図版 1

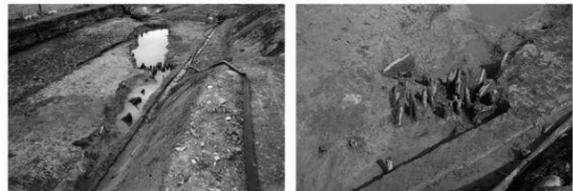
三沢南崎遺跡 Ⅱ
 小都市三沢南崎所在遺跡の調査一
 小都市文化財調査報告書第241集
 平成21年3月13日
 発行 小都市教育委員会
 小都市小館255-1
 印刷 ハクエー・フジヤ
 小都市力255-44

図版 8



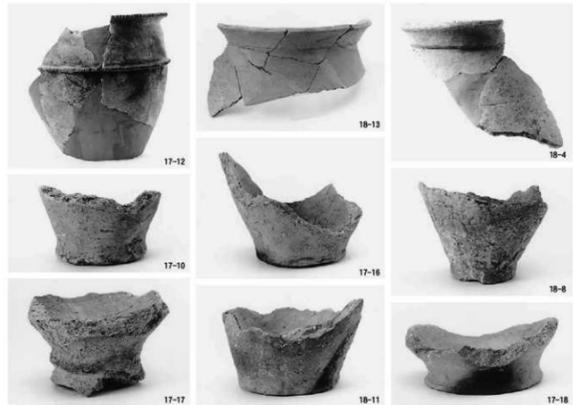
①Ⅱ区6号溝状遺構 完掘状況 (北西から)

②Ⅱ区3号流路 完掘状況 (南西から)



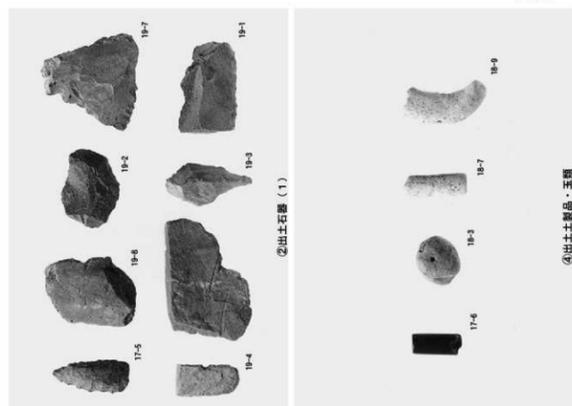
③Ⅱ区3号流路 湧水状況 (南西から)

④Ⅱ区3号流路 木杭検出状況 (南西から)



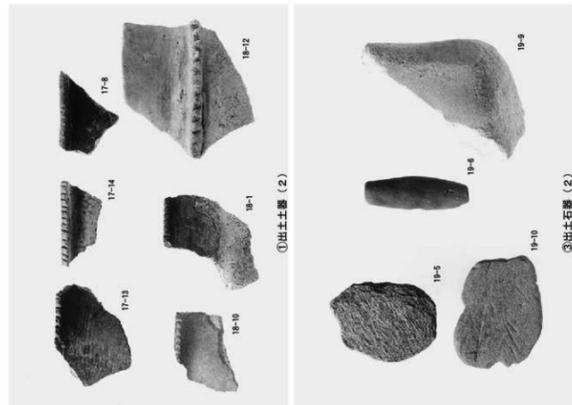
⑤出土土器 (1)

図版 9



②出土土器 (1)

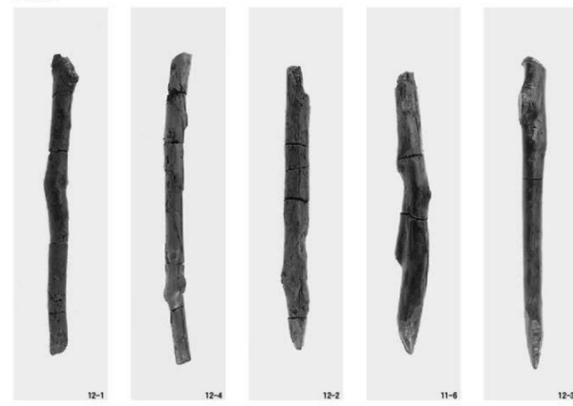
④出土土製品・玉類



①出土土器 (2)

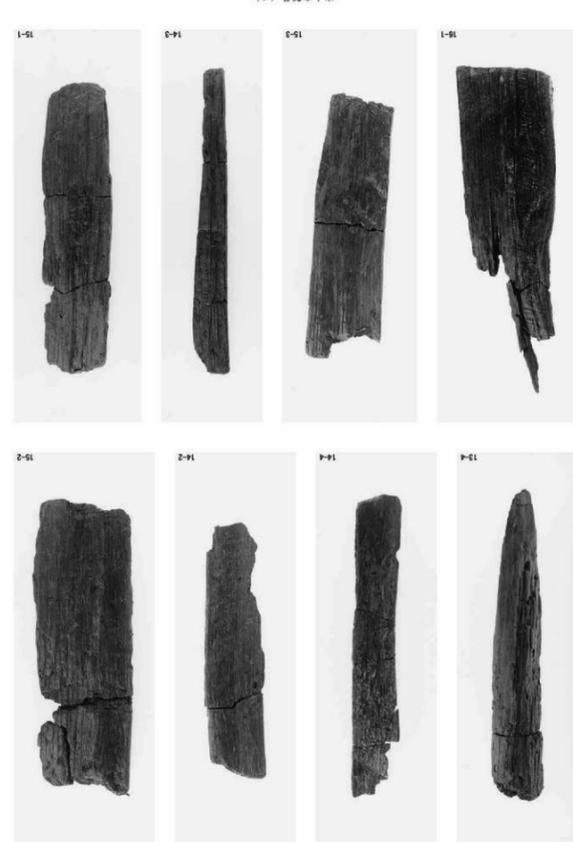
③出土土器 (2)

図版 12



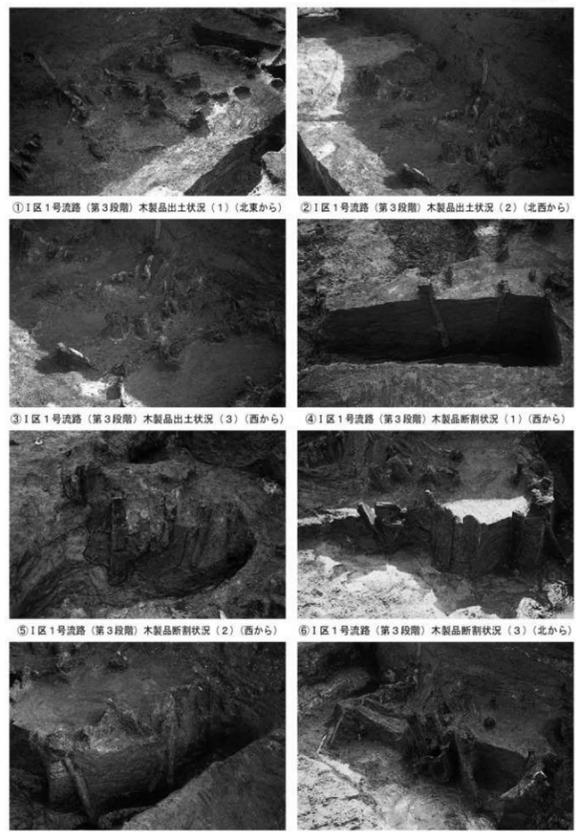
出土木製品 (3)

図版 13



出土木製品 (4)

図版 5



①Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品出土状況 (1) (北東から)

②Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品出土状況 (2) (北西から)

③Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品出土状況 (3) (西から)

④Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品断片状況 (1) (西から)

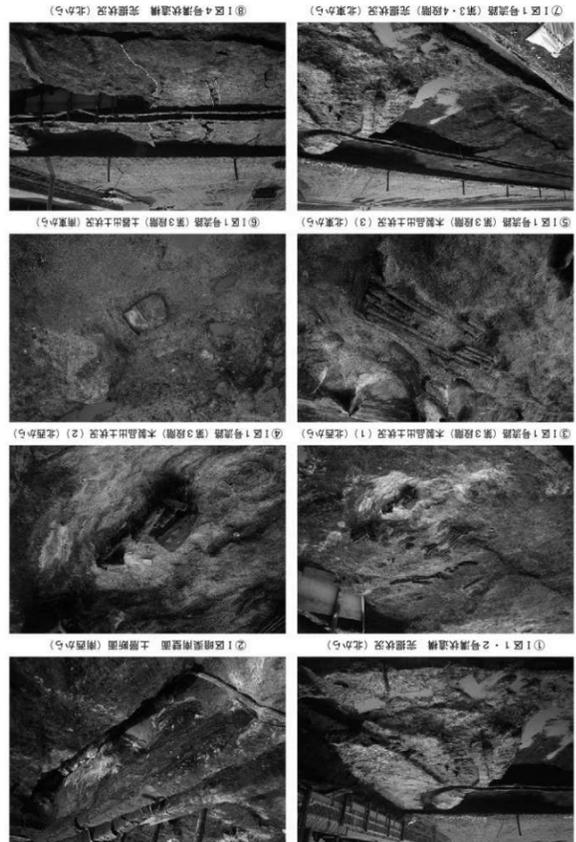
⑤Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品断片状況 (2) (西から)

⑥Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品断片状況 (3) (北から)

⑦Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品断片状況 (4) (西から)

⑧Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品断片状況 (5) (北西から)

図版 4



①Ⅰ区1・2号溝状遺構 完掘状況 (北から)

②Ⅰ区南側溝跡 土層断面 (南西から)

③Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品出土状況 (1) (北西から)

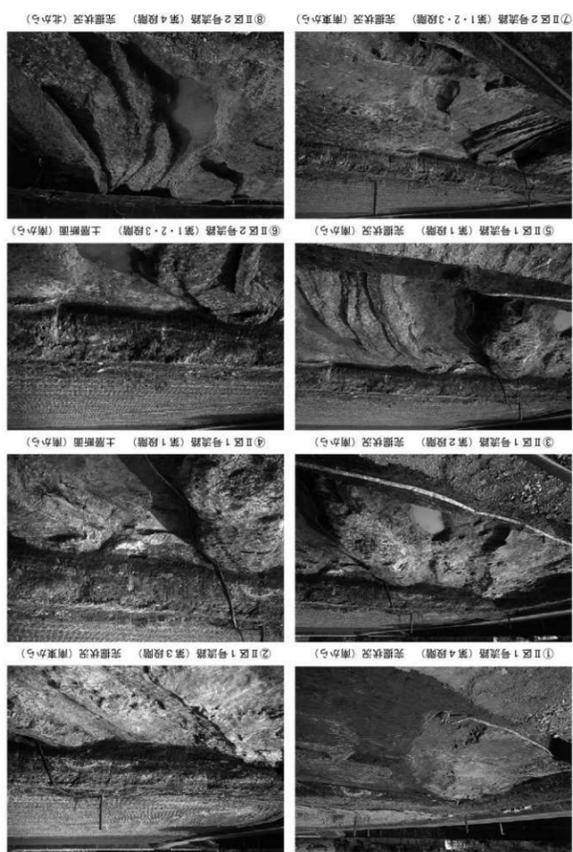
④Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品出土状況 (2) (北西から)

⑤Ⅰ区1号流路 (第3段階) 木製品出土状況 (3) (北東から)

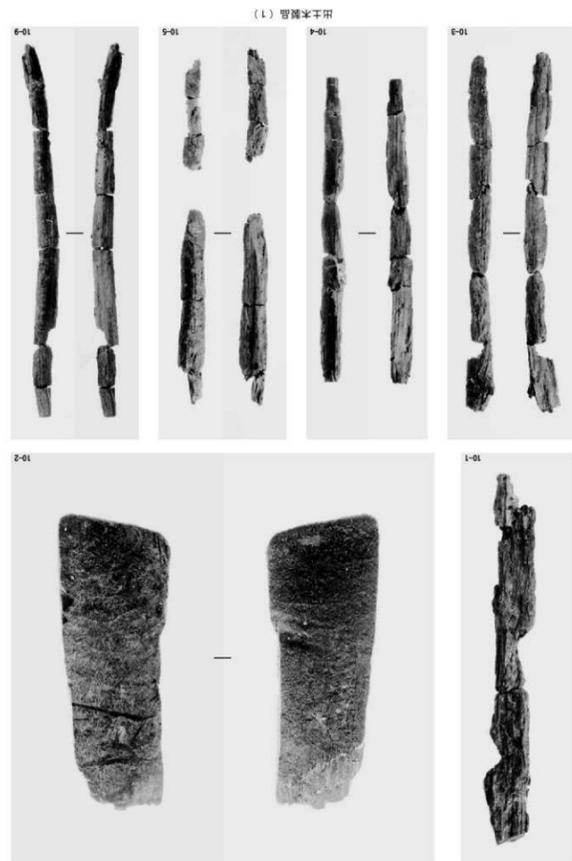
⑥Ⅰ区1号流路 (第3段階) 土層出土状況 (南西から)

⑦Ⅰ区1号流路 (第3・4段階) 完掘状況 (北東から)

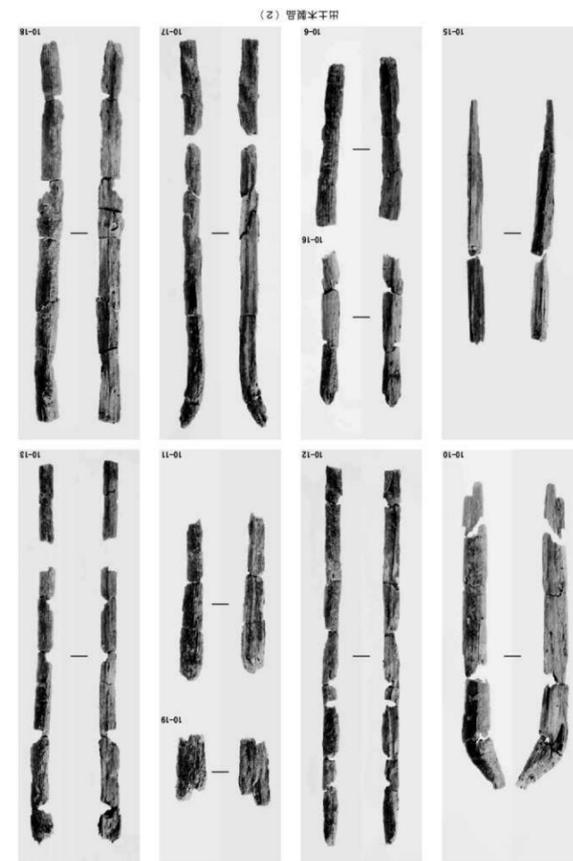
⑧Ⅰ区4号溝状遺構 完掘状況 (北から)



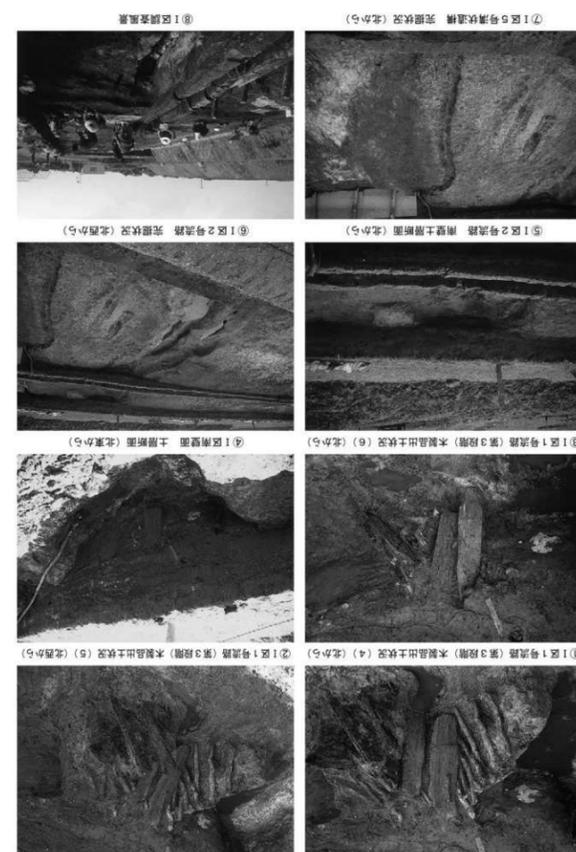
図版 7



図版10

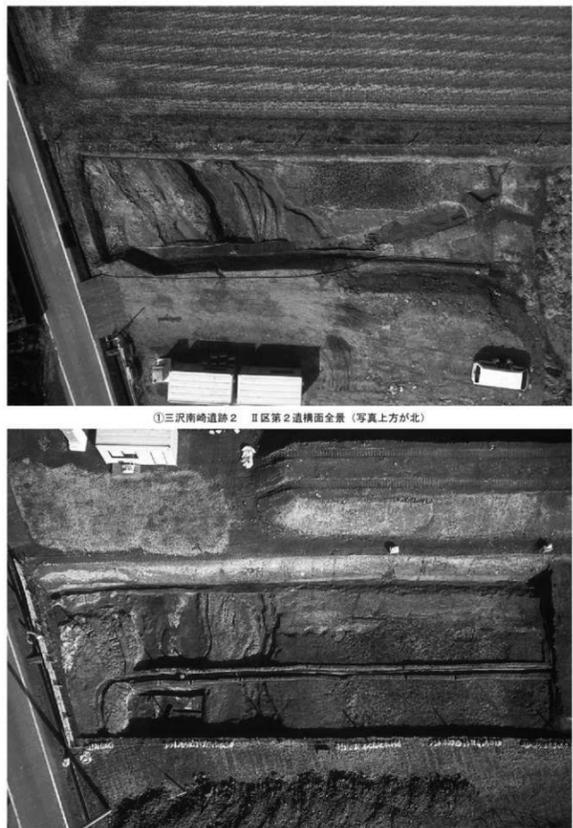


図版11



図版 6

図版 2

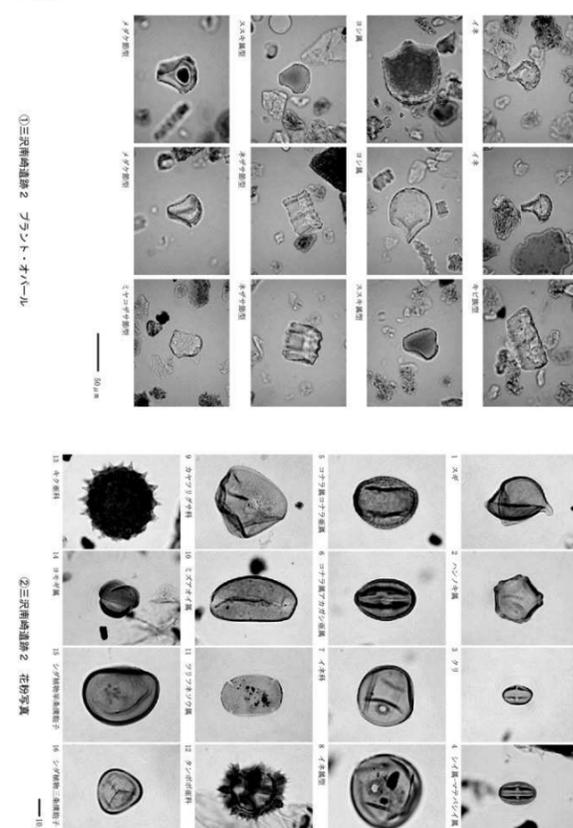


②三沢南崎遺跡2 I区第2遺構面全景 (写真上方が北)

報告書抄録

ふりがな	みつさわみなぎきいせき							
書名	三沢南崎遺跡 2							
副書名	小都市三沢南崎所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小都市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第241集							
編者名	上田 恵							
編集機関	小都市教育委員会 小都市埋蔵文化財センター							
所在地	〒838-0106 福岡県小都市三沢5147-3 TEL 0942-75-7555							
発行年月日	平成21 (2009) 年3月13日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
三沢南崎遺跡2	福岡県小都市三沢南崎	40216		33° 25' 01"	130° 33' 51"	20071213 20080319	477㎡	県道本郷基山線道路改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
三沢南崎遺跡2	その他	弥生時代 近世	自然流路 水路 水田・溝状遺構	石器 土器・石器 土師器 土師器・陶磁器				

図版14



図版 3



②調査区上空から三沢南崎遺跡3 (集落部) を臨む